

# 2019年度 須磨学園夙川中学校入学試験

## 国 語 プレテスト

### (注 意)

解答用紙は、この問題冊子の中央にはさんであります。まず、解答用紙を取り出して、受験番号と氏名を記入しなさい。

1. すべての問題を解答しなさい。
2. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
3. 試験終了後、解答用紙のみ提出し、問題冊子は持ち帰りなさい。
4. 字数制限のある問題については、記号、句読点も1字と数えること。

【一】 次の会話文を読んで、後の設問に答えなさい。

登場人物

【先生】 AとBのとなりのクラスの担任。

【A】 学級新聞作成のリーダーをしていた生徒。

【B】 Aと同じ班で学級新聞を作っていた生徒。

【一】 の設問

問一  にあてはまらないものを次の中から一つ

選び、番号で答えなさい。

- 1 リーダー失格だ
- 2 リーダーの役割を考え直せ
- 3 リーダーの仕事をしていない
- 4 リーダーとして指導力がない

問二  にあてはまる表現を考えて、一〇字以内

で答えなさい。

問三 「直接的な表現では伝えられないことがある」(――

―線部)とありますが、Aさんの担任の先生は直接的ではない表現を通して、今後、どのような班になってほしかったと考えられますか。一〇字以内で答えなさい。

【A】 学級新聞が完成したときに、班員全員と先生でふり返りをしました。そのときに担任の先生から言われた言葉の意味が分からないので、一緒に考えていただいてもいいですか。

【先生】 分かりました。今日は、Bさんも一緒なんですね。

【B】 Aさんは、リーダーとして頑張っていたのに、ひどいんです。

【先生】 担任の先生は、どういうことをおっしゃったのですか。

【A】 ふり返りでは、新聞を作ったときの活動の報告をリーダーの私がお話したのですが、「学級新聞がうまくいったのは、本当に君だけのおかげなのか？」と言ったんです。

【先生】 なるほど。その言葉だけなら、ひどいですね。

【B】 そうですよ。その発言は、 という意味ですよ。

【先生】 まあまあ、そう怒らずに。実際に、学級新聞作りは順調に進んだのですか。

【A】 私は、作成が順調に進むように役割分担をした上で率先して自分の仕事に取り組み、班員がしめきりを守って進めているのかも定期的に確かめました。困っている班員やしめきりに間に合いそうにない班員が居れば、積極的に手伝ったのも私です。

【先生】 班員みんなは、どうでしたか。

【B】 私たちの方でも、リーダーのAさんの指示をよく聞いて、Aさんに迷惑をかけないように、お互い注意したり声をかけ合ったりすることができました。

【先生】 なるほど。話を聞く限り、リーダーとしてAさんは、本当にしっかりお仕事をしていたようですね。

でも、担任の先生は、Aさんが班員に ということをおっしゃりたかったのではないのでしょうか。

【A】 そんなこと、分からないですよ。

【先生】 世の中には、直接的な表現では伝えられないことがあるっていうことでしょうかね。

【A】 日本語って、難しいですね。

## 二 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

日本人はどうしてじぶんの子どもをもっとほめてあげないのですか、とアメリカ人のお母さんに訊ねられて、ふと考えた。その昔、二年滞在したフランスで私のフランス語がいつこうモノにならなかつた一方、たった二か月の滞在にもかかわらず、イタリア語のほうは、どうにか日常に不便しない程度にあやつれるようになった。その理由のすくなくとも一端は、まさに、フランスではたえずけなされ（すくなくともそう信じ）、イタリアではほめられ（たと信じ）たからではないかと、思いあたったのである。けなされるという、表現がどぎついが、三十五年まえ、ヴェトナム戦争でのハイボクで気が立っていた当時のフランス人に、こちらがおおずおおずと発音に気をつかって口にするセンチンスは、大学でも、語学学校でも、買物の店先でも、ほとんど例外なく、聞きちがえられたり、なおされたり、もつとはつきり言いなさいよ、とどなられたりした。私はものゝいうのが怖くて、とくに寮の玄関にいて、電話がかかってきたりすると、だれかが返事をしてくれないかと、必死であたりをみまわしたものである。

パリで一年をすごしてから、イタリアは、ベルウジャの外国人大学にゆくと、すべてが対照的だった。まず第一に、下宿先の家族が、「日本などという遠い国の人間が、イタリア語を話す」ことになんの期待も寄せず、したがって、私が口のにぼせる一語一語に、彼らが驚き、よろこんでくれたこと。食事のとき、私がひとつあたらしい表現をおぼえるたびに、ブラーヴァ、と歓声があがった。どちらもおめでたい、といってしまうえそれまでだろう。私はほんとうに自分がブラーヴァなのだろうと信じこんでしまい、イタリア語がすきになり、上達が早かった。

下宿先のカンパーナ家の孫にあたる、五歳と二歳の女の子が、夏の日の夕方、庭の月桂樹の蔭で本を読んでいる私を、よくじぶんたちのおうちごっこにいれてくれた。X「おねえさんのマリア・ビアは、容赦ない先生で、じぶんたちがふだん、親にいわれていることを、そっくりそのまま、私に言つてきかせた。え？ もつとはつきり言つてよ。それじゃわからない。私が動詞の複数と単数をまちがえたときなど、マリア・ビアは、いやあね、ちゃんとおつしやいよ、赤んぼうみたいない口きいてと、さも軽蔑したように私を見つめた。パリなどに最初から行かないで、どこか小さな町へいらつしやい、と出発前に忠告してくださつた先輩のことばを、私は思いだしながら、ジャスマインのかおる夕暮の庭で、マリア・ビアのいうことを、一言も逃すまいと、いっしょうけんめいに聞いた。

二年間のフランス留学を終えて、私はフランス語を読み

書き話すという、かなりきびしい日本の職場で、もう一度、この言葉と向きあうことになった。そこでも私のフランス語は、ほめられるどころか、いつもだめだめといわれつづけた。すくなくとも、じぶんにはそう感じられて、そんなとき、イタリア語への郷愁がふつふつと湧いた。イタリア語なら、こんな目にあわなくてすむと思ひながら、毎日に耐えた。

そんなイタリア語とその国の文化にのめりこんで、十三年をイタリアで暮らしたが、そのあいだ、フランスとその国のことばに対しては、なにやらうとましさを感じつづけ、あの国へは、もう行きたくない、という気持ちがあった。

Y、日本に帰って何年かして、若い人のグループにつきそってフランスに行くことになり、現地では彼らのために、なんだか、フランス人とわたりあうはめになった。以前、じぶんを守るために必死におぼえようとした言葉を、こんどは他人を守るために使わなければならなかった。そして、驚いたのである。まえには、あんなにモノにならなかつた、からきし駄目と信じこんでいたフランス語が、じつにちゃんと話せたのである。話せるどころか、それをつかって、たどたどしいながら喧嘩さえたのである。あれは一体どうしたことだったのか。十五年間、（読むことはあつても）話すことのほとんどなかったフランス語が、私流の表現でいわせてもらえば、私のなかですくすくと育っていたのだ。

Z 心理学的には、コンプレックスの障壁がとれて、それまで私のなかにひそかに蓄積されていたフランス語が、ふいに明るい突破口をみつけ、すなおに流れだしたとでもいうのかもしれない。それはフロベールやスタンダールからもらつたフランス語でもあり、ほとんど参加できずにただ聞いていた学生仲間の会話のフランス語でもあつた。そのとき、それらすべてがパイに、溶けてほとばしりてのだった。

もうひとつの説明がある。それは、その間、すぐとなり  
の国のイタリア語を、私がすっかり自分のものにして  
事実である。イタリア語の構文と語彙が、しらない間に  
フランス語のなかにしみこんでいたにちがいない。しかし、  
そんな科学もどきの説明とはべつに、あの暗い凍った沈黙  
のなかで、そつと育つていたじぶんのフランス語が、ひど  
くいとおしくなることがある。

私たちの母国語の基礎は、ほめられて覚えたものである。  
長男を戦争でなくしたある老人に、あの子が生まれて、も  
のを言うようになって、毎日、あの子のすること、口にし  
た言葉すべてが、わたしたち夫婦にとって、あたらしい世  
界でした、とうちあけられたことがある。それほど愛情  
をもつてはぐくまれた母国語なのに、いったん外国語をな

## 二の文章は裏面に続く

らおうとすると、わたしたちははずいぶん、こわい目にあわされる。まちがいをサガすのに血まなこで、ほめることを忘れたかのような、おおくの教師たちによって。

もつとおたがいにほめてみたら、みんなの外国語が、すこし上達するかもしれない。

(須賀敦子「ほめる」による)

注1 ペルウジャ……………イタリアの地名。

注2 カンパーナ……………イタリア人の名字の一つ。

注3 先達……………先輩として他を導く人。

注4 郷愁……………故郷をなつかしく思う気持ち。

注5 コンプレックス……………ここでは「劣等感」の意味。

注6 フロベール……………フランスの作家。

注7 スタンダール……………フランスの作家。

二の設問

問一 線部 a c のカタカナをそれぞれ漢字に直しなさい。

問二 X Z に入る語として最も適当なものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、番号で答えなさい。

- 1 やはり      2 いわゆる      3 だから  
4 ところが      5 おそらく      6 とくに

問三 「その昔、二年滞在したフランスで私のフランス語がいつこうモノにならなかった一方、たった二か月の滞在にもかかわらず、イタリア語のほうは、どうにか日常に不便しない程度にあやつれるようになった」(線部ア)とありますが、それはなぜだと筆者は考えていますか。六〇字以上七五字以内で説明しなさい。

問四 「出発前に忠告してくださった先達のことばを、私は思いだしながら」(線部イ)とありますが、なぜ筆者は「先達のことば」を「思いだし」たのですか。その理由の説明として、最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 マリア・ピアが筆者のイタリア語をけなしたから。  
2 先達の言葉に出てきたことと似た経験をしたから。  
3 下宿先で語学の厳しい指導をはじめて受けたから。  
4 先達の言葉を聞いておけばよかったと後悔したから。

問五 「からきし駄目と信じこんでいたフランス語が、じつにちゃんと話せたのである」(線部ウ)とありますが、なぜですか。その理由の説明として、誤っているものを次の中から二つ選び、番号で答えなさい。

- 1 コンプレックスから解放されて、ひそかに蓄積されていたフランス語が口について出たから。  
2 若いグループを守るために、話した経験のないフランス語を使わざるを得ない状況があったから。  
3 長年ほとんど話さなかったフランス語だが、知らないうちに自分の中で上達していたから。  
4 イタリア語を習得していたことが影響して、知らず知らずのうちにフランス語を身につけていたから。  
5 フランス語の文章に親しむとともに、学生仲間のフランス語での会話を聞いていたから。  
6 何年も使っていなかったフランス語を使い、フランス語に対する郷愁の気持ちがわいてきたから。

問六 本文を通して筆者が言いたいこととして、最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 アメリカ人の母親は、日本人が語学習得の際に子どもをほめないことを批判した。  
2 外国語習得にはほめられるだけでなく、時には危機的状況を経験するのも必要だ。  
3 「ある老人」は、わが子が外国語を習得する際にほめることを大切にしていた。  
4 母国語の習得には、ほめることが最も高い効果を示すことが分かる。  
5 母国語だけでなく外国語を学ぶ際も、あたたかくほめることでより上達すると考えられる。

次の問三は裏面に続く

三 次の文章は、「私」が九歳のとき、母が離婚し祖父と同居した後の場面です。読んで、後の設問に答えなさい。

翌年の冬、祖父が幾つだったか、多分七十四か五くらいではなかったかと思う。冬の寒気がきびしくなり、火鉢、手焙り、湯たんぽを総動員しても寒さを防ぎ切れず、七草が過ぎ小豆がゆともなれば、病むではなく起きにくい日がつづき、咳が喉にからんではつきり風邪の症状が出揃ってくるそんな時であった。

医者を呼ぶのを祖父は嫌う。

長年なじみのお隣りの先生で、この方は祖父には息子、母には弟だった成豊が結核で発病した時からの付き合い合だが、診察してもらえば薬も飲まなければならなくなるし、そのために胃の調子も狂う、飲んでも ※ に苦かろうが煙草も気ままには吸いにくくなる。その上、楽しみにしているお酒まで取り上げられてはかなわない。人から規制されるのが大嫌いだ。医者なんぞの言うことを聞かなくても、お風呂に入って気に入った一杯で気持よく寝れば、風邪の神なんか追払ってやる。

気持ちはそう思っているのだが、体が食事の時に起きてみても、じきに疲れて起き切れない。何てじれったく腹の立つことばかりだ。① して、目の前に来るものがあれば何でもつつかかっていたのだ。

母はそれを承知し切っているから、引っかからないように抜け目なく出つ入りつし、何か言われそうだなと思うと私を使う。

お盆に乗せた薬の小さいガラスの盃を見て、

「おや、又何か出て来たのか、それは何だね」

②

「いえ、お上げしてくるようになって」

「うむ、それでお前は何も聞かずに持って来たのか」

はい、と言つても、いいえと言つても返事にはならない。

こういう状態を母と私は三又といった。はいも駄目、いえはなお、三つ目の、聞いて来ますの一時のがれも利かない。どの道叱られる他はない、黙って畳のへりでもぼんやり見ていれば、そこに返事が書いてあるのか、とつつこまれ、 ※ を利かずに腰を浮せれば、返事もしないで座を立つことが出来るのか、ならば立つてみる、と腰払いがかかる。

何しろ逃げ出したい、まずは謝って逃げようと、

「申し訳ありません、聞いて来ます」

「何を申し訳ないと思っているんだ、お前は何も考えないで、ただふわふわしている、申し訳などどこにもありません。薬というものは恐ろしいものだ、正しく使われれば命を救うが量をあやまれば苦しみを人に与える。何の考え

も無しに薬を良いものだけ信じて人にすすめるとはどういうことだ。昔、耆婆は釈迦の命が危なかった時に秘薬を鼠に投げて釈迦の元へ走らせた、なのにバカな猫がその鼠を食ってしまったから間に合わず釈迦は亡くなったというが、しかし薬は劇薬でそれを飲んだために命を縮めたという説もある。そもそも釈迦が死ぬような目に逢ったのは、信心深い婆さんが托鉢の鉢のなかへ献じた食物の中に毒きのが入っていて、釈迦はそれを知っているながら承知で食べて、苦しみ死をしたとも言われている。愚かな者は、自分がよいことをしたつもりで恐ろしいことを平気でやってのける、お前は自分のしていることを、どう考えているのだ」

ただお盆を渡されて、

「持ってって」

といわれて持って来て、何を叱られているのか解らないうちに、自分は愚かなために祖父を苦しめさせようとしている悪者になり、謝ろうにも、何を謝っていいのかかわからず悲しくなつてぼとぼと涙がこぼれる。

何でも、はい、はいと言われるままに動けずにいると、母が入って来て、

「行きなさい」

と一喝されペコッとお辞儀をして部屋を出て、お勝手の戸棚にもたれてびそびそ泣いていた。

母はどう祖父を収めたのか、からになった盃を洗いながら、

「だからぐずぐずしているなって言ってるのに、余計、ご機嫌悪くなるじゃないの」

今度は母から文句が出る。

私は何時もへまをやつては母に手数をかけるお定まりのパターンになって、二階の自分の部屋に逃げ込んで気が納まるまで泣いていた。

(青木玉『小石川の家』による)

- 注1 七草 …………… 七草がゆ。一月七日に食べる。
- 注2 小豆がゆ …………… 一月十五日に食べるおかゆ。
- 注3 つつかかりたい …… 言いがかりをつけたい。
- 注4 出つ入りつ …………… 出たり入ったり。
- 注5 耆婆 …………… 医者の名前。
- 注6 釈迦 …………… 仏教を開いた人。
- 注7 托鉢 …………… 僧が修行の一つとして、鉢を持って米などを受け取ること。

三の設問

問一

~~~~線部 a・b の語句を本文と同じ意味で使用した例文として、最も適当なものを後からそれぞれ一つずつ選び、番号で答えなさい。

a 「かなわない」

- 1 規則正しく生活するという点で彼にはかなわない。
- 2 この悪天候では山頂まで登ることはかなわない。
- 3 残念ながらお眼鏡にかなわない結果となりました。
- 4 自分の失敗を他人のせいになされてはかなわない。

b 「抜け目なく」(抜け目ない)

- 1 彼の抜け目ない人柄はみんなの尊敬を集めている。
- 2 電車が混んでいたので抜け目なく立っていた。
- 3 彼は何事にも抜け目ないので、事業で成功した。
- 4 こんなに人が多くては抜け目ない限り通れない。

問二

※ に共通して入る漢字一字を答えなさい。

問三

① にあてはまる語として最も適当なものを次の

中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 だらだら
- 2 きりきり
- 3 おどおど
- 4 じりじり

問四

「母はそれを承知し切っているから」——線部ア)とありますが、母は何を「承知し切っている」のですか。その説明として、最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 祖父はいらいらして、何かあることにいいがかりをつけてくるということ。
- 2 祖父は体が自由にならず、そのいらだちをおさえようとしてもおさえきれないということ。
- 3 祖父は病を自分の力で治すことができないことをもどかしく感じているということ。
- 4 祖父は医者に煙草やお酒を取り上げられてしまうことに納得できないということ。

問五

② に入るように次の 1～4 を正しい順番に並べかえて番号で答えなさい。

- 1 「お隣の先生がよこした薬かい」
- 2 「食間のお薬です」
- 3 「はい」
- 4 「何のためのものか、おっ母さんは言っていたか」

問六

「何を申し訳ないと思っているんだ、お前は何も考えないで、ただふわふわしている」——線部イ)とありますが、「祖父」はどのような意図でこのように言ったと考えられますか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 薬の効能も考えずにただ飲めばよいと信じるのはまちがっているということに気づくべきだ。
- 2 考えてから行動せよと皆から言われていたのに、無自覚に危険なふるまいをしたことを反省するべきだ。
- 3 少しでも人を納得させることができるようになっていか言い方を工夫して自分の思いを伝えよ。
- 4 何が悪かったのかも分かっているのにただ謝ることとは、何の反省にもなっていないことを自覚せよ。

問七

「動けずにいると」——線部ウ)とありますが、このときの「私」の心情はどのようなものだったと考えられますか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 祖父が大きな声を出すので緊張している。
- 2 祖父の言葉にどう対応すべきか分からず困っている。
- 3 祖父のもとへ自分を行かせた母をうらんでいる。
- 4 祖父になんとか許してもらおうと必死になっている。

